

# 風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

## 注意報

災害のおそれがあるときに発表されます。本書などで避難行動を確認しましょう。

## 警報

重大な災害のおそれがあるときに発表されます。





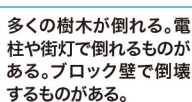
## 特別警報

数十年に一度の大災害が起きると予想される場合に発表されます。危険な区域から避難できない方は、命を守るための最善の行動をとります。

## 雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上 30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる			ワイパーを速くしても見づらい
30以上 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)
50以上 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる			車の運転は危険
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる			水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	

## 風の強さと吹き方

平均風速(m/s)	おおよその時速	風の強さ(予報用語)	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物の被害	おおよその瞬間風速(m/s)
10以上 15未満	~50km	やや強い風	一般道路の自動車	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。 	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
15以上 20未満	~70km	強い風		風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはかれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	30
20以上 25未満	~90km	非常に強い風	高速道路の自動車	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。 	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。 	通常の速度で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	40
25以上 30未満	~110km			屋外での行動はきわめて危険。 		走行中のトラックが横転する。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	50
30以上 35未満	~125km		特急電車		多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。 		外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。 住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	60
35以上 40未満	~140km	猛烈な風						
40以上	140km~							

## 台風について

◆熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速(10分間平均)がおおよそ17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼びます。

## 台風の大きさと強さ

◆台風のおおよその勢力を示す目安として、風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

### 大きさの階級分け


大きさ	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

### 強さの階級分け


強さ	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

## 避難のポイント 危険な場所


### 川や用水路に近づかない

降雨が続く不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かず、やむを得ない場合は複数人で行動しましょう。避難の途中も増水した川の近くを通るのは避けましょう。  



### 浸水が始まる前に早めの避難を

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となります。浸水してから自宅外への避難は危険です。危険を感じたら自主的に避難を開始しましょう。  



### 地下室、地下街は危険

地下室にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定されます。また、地上が冠水すると一気に水が流れこんでくる場合もあります。脱出が困難となります。  



### 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難しましょう。移動途中であっても、危険を感じたら近隣の建物へ。  


### アンダーパスは危険

道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水します。場所を把握し、迂回路を想定しておきましょう。  


### やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適しています。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できません。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意しましょう。  


### 避難は徒歩で!

車での避難は、緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水するおそれがあるので、徒歩で避難しましょう。  


## 避難時 8 の心得

ハザードマップ(本書)で避難所の位置や土砂災害警戒区域等を前もって確認しておきましょう。備蓄品もチェックしましょう。  


テレビ・ラジオで最新の気象情報に注意しましょう。  


町や消防からの避難の呼びかけに注意し早めに避難しましょう。  


避難する前に電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、必要なものをまとめておきましょう。  


土砂災害は予測が難しく、避難指示の発令が間に合わないこともあります。少しでも危険を感じたら迷わず避難しましょう。  


避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難しましょう。  


高齢者や障がい者など、配慮を要する方の逃げ遅れが無いように協力して助け合いましょう。  


避難が難しい時は、2階以上のできるだけ山から離れた部屋に移動しましょう。  


## 台風への備え

### 家屋周辺

- 商店などでは看板のぐらつきにも注意
- 庭の鉢植えに注意。室内に入れておく
- 家の周りを一周し、飛ばされそうなものは全て室内に取り込むか固定するなどの飛散防止を

### 屋根

- 瓦のひび、割れ、ずれ、はがれはないか
- トタンはめくれやはがれがないか

### テレビアンテナ

- 錆びたりゆるんだりしていないか。不安定なアンテナは固定する

### 雨どい

- 雨どいに落ち葉や砂などが詰まっていないか。断目はずれや塗料のはがれ、腐りはないか
- 雨戸にガタツキや緩みはないか、ちゃんと閉まるか点検補修を

### ベランダ

- 鉢植えや物干し竿など飛散の危険が高いものは室内へ

### プロパン

- 固定されているか

### ブロック塀・板壁

- ブロック塀にひび割れや破損箇所はないか
- 板壁にぐらつきや腐りはないか

### 窓ガラス

- ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。また強風による飛来物などに備えて、窓に飛散防止フィルムを貼る。外側から板でふさぐなどの処置を

